【令和６年度版】

日野川水害タイムライン運用の手引き

令和６年６月

日野川水害タイムライン事務局

目　次

1. タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除について 1
1.1. タイムライン事務局の設置 1
1.2. タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除の判断基準 1
2. 関係機関へのメーリングリストによる周知について 6
2.1. メーリングリストの目的 6
2.2. メーリングリストの加入機関・アドレス 6
2.3. メーリングリストの運用方針 7
3. フォローアップ会議（振り返り）の実施 10

1. タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除について

1.1. タイムライン事務局の設置

日野川水害タイムラインの運用においては、表 1 に示すメンバーで構成された日野川水害タイムライン事務局を設置して、タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除の判断やその他の調整を行います。

また、出水後には、タイムライン事務局メンバーが中心となり、各機関の行動記録をもとにフォローアップ会議（振り返り）を実施し、タイムラインの改善を行います。

表 1　日野川水害タイムライン事務局メンバー

機関	部署	内部会議（連絡調整）
米子市	防災安全課	
伯耆町	総務課	
南部町	総務課	
日吉津村	総務課	
鳥取県	危機管理政策課	○
	河川課	○
鳥取地方気象台		○
日野川河川事務所		○

1.2. タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除の判断基準

タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除は、タイムライン事務局の中に置く内部会議メンバーにおいて、情報・状況に応じて意思決定を行います。なお、タイムライン発動時には、日野川河川事務所が鳥取地方気象台と調整の上で、鳥取県域の 3 河川事務所で情報共有を行い、その結果を検討会参加機関に伝達します。（図 2 参照）

【タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除の基準】

① 早期注意情報や気象情報、水位状況に応じて順次タイムラインレベルの移行（引き上げ、引き下げ）

② 被害が発生しなかった場合は、タイムラインの情報・状況に準じて引き下げ

※水位が水防団待機水位を下回り、かつ大雨警報（浸水害）及び洪水警報が解除された場合はタイムラインを解除

③ 被害が発生した場合（レベル 5 に到達した場合）は、応急復旧や救助活動が収束するまでレベル 5 を維持し、応急復旧や救助活動が収束した段階でタイムラインを解除

※　詳細については図 1 参照のこと

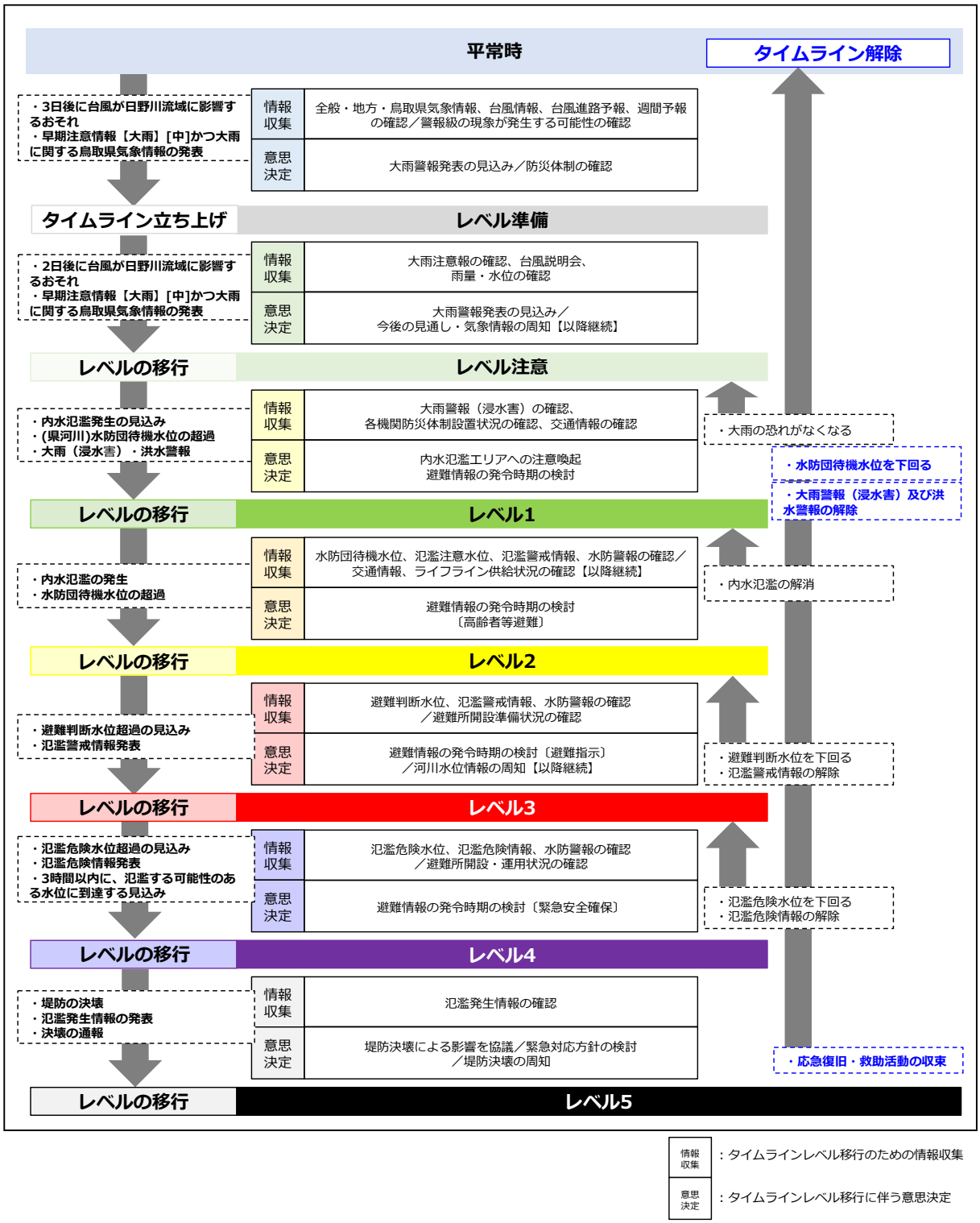


図 1　日野川水害タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除

※図 1 の各タイムラインレベルに示す 情報収集 ・ 意思決定 は日野川水害タイムライン事務局メンバーが行う「タイムラインレベル移行のための情報収集」及び「タイムラインレベル移行に伴う意思決定」を示しています。

タイムラインの運用（実施）方法

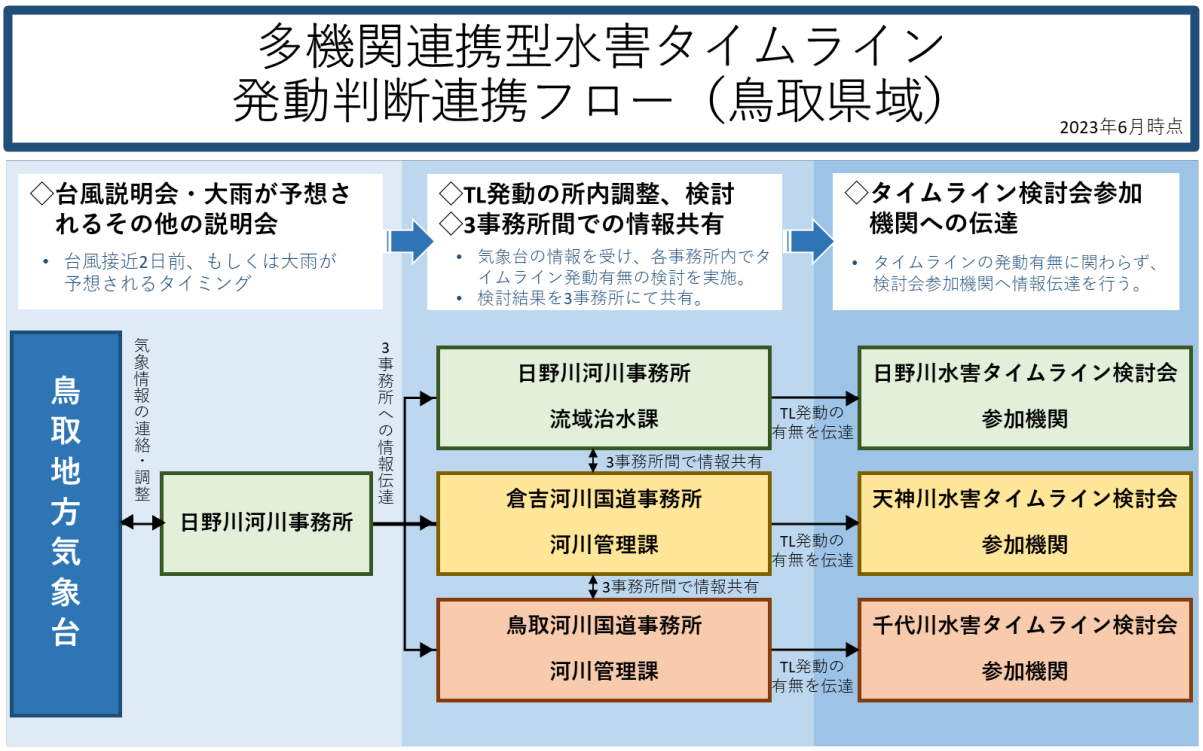
タイムラインの実施としては、立ち上げ・各レベル移行・引き下げにおいて、表 2 に示すとおりに行います。

連絡系統については、図２、３のとおりです。

表 2　タイムラインの実施と判断基準

		段階	判断基準		内部会議（連絡調整）
			発令	解除	
1	**タイムラインの開始**	レベル準備	台風進路 3 日前 早期注意情報【大雨】[中]かつ大雨に関する鳥取県気象情報の発表		気象台と調整後 国からメール配信
2	**レベルの移行**	レベル注意	台風進路 2 日前 早期注意情報【大雨】[中]かつ大雨に関する鳥取県気象情報の発表		気象台と調整後 国からメール配信
		レベル 1	内水氾濫発生見込み （県河川）氾濫注意水位超過 大雨（浸水害）洪水警報発令	（県河川）氾濫注意水位未満 大雨（浸水害）洪水警報解除	県・気象台と調整後 国からメール配信
		レベル 2	内水氾濫発生 水防団待機水位超過	水防団待機水位未満	県と調整後 国からメール配信
		レベル 3	避難判断水位超過見込み 氾濫警戒情報発表	避難判断水位未満	県と調整後 国からメール配信
		レベル 4	氾濫危険水位超過見込み 氾濫危険情報発表 3 時間以内に、氾濫する可能性のある水位に到達する見込み	氾濫危険水位未満	県と調整後 国からメール配信
		レベル 5	堤防決壊 氾濫発生情報発表 決壊通報		県と調整後 国からメール配信
3	**タイムラインの終了**			応急復旧・救助活動収束	県と調整後 国からメール配信

※　土砂災害は局地的な対応となるため、日野川水害タイムラインでは対象外とする。



【関係機関】国土交通省中国地方整備局　日野川河川事務所
国土交通省中国地方整備局　倉吉河川国道事務所
国土交通省中国地方整備局　鳥取河川国道事務所
気象庁　鳥取地方気象台

図 2　タイムライン発動時の連絡系統

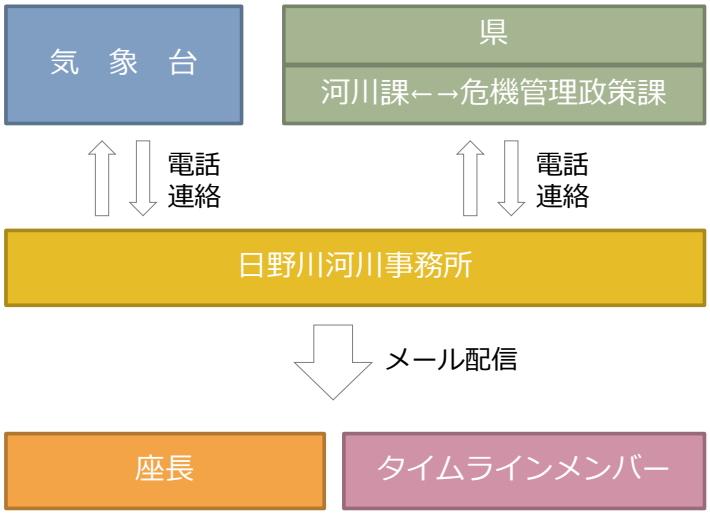


図 3　タイムラインレベル移行時の連絡系統

※　基本は水位がトリガーとなるため、県河川課・気象台・日野川河川事務所の３者で判断する。

※　内水氾濫がトリガーとなる際の情報源として、県危機管理政策課を含む。

【参考：タイムラインレベルと警報級レベルの関係性】

表 3　タイムラインレベルと警戒レベルの関係性

タイムラインレベル	レベル準備	レベル注意	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
警戒レベル			1	2	3	4	5
主なイベント発生	• **3日後**に台風や大規模な前線が日野川流域に影響するおそれ	• **2日後**に台風や大規模な前線が日野川流域に影響するおそれ	• **内水氾濫発生の見込み**	• **内水氾濫の発生** • **水防団待機水位の超過** • **氾濫注意水位の超過**	• 避難判断水位超過の見込み	• 氾濫危険水位超過の見込み • 3時間以内に、氾濫する可能性のある水位に到達する見込み	• **堤防の決壊** • 決壊の通報
主な発表情報	• 台風情報 • **早期注意情報【大雨】[中]かつ大雨に関する鳥取県気象情報の発表**	• 台風説明会の実施 • 台風情報 • **早期注意情報【大雨】[中]かつ大雨に関する鳥取県気象情報の発表** • **気象注意報**	• 台風情報 • **気象警報**	• 台風情報 • **気象警報継続** • **洪水警報の危険度分布（注意：黄色）** • **水防警報（待機・準備／出動）** • **洪水予報（氾濫注意情報）** • **洪水予報（氾濫警戒情報）**	• 台風情報 • **気象警報継続** • **洪水警報の危険度分布（警戒：赤色）** • **水防警報（出動）** • **洪水予報（氾濫警戒情報）**	• 台風情報 • **気象警報継続** • **記録的短時間大雨情報発表** • **土砂災害警戒情報発表** • **洪水警報の危険度分布（危険：紫色）** • **水防警報（指示）** • **洪水予報（氾濫危険情報）**	• 台風情報 • **大雨特別警報の発表** • **洪水予報（氾濫発生情報）** • **洪水警報の危険度分布（災害切迫：黒色）**

【参考：早期注意情報（警報級の可能性）について】

早期注意情報（警報級の可能性）は、警報級の現象が 5 日先までに予想されているときに、その可能性を [高]、[中]の 2 段階の確度を付して発表されます。（平成 29 年度出水期より）

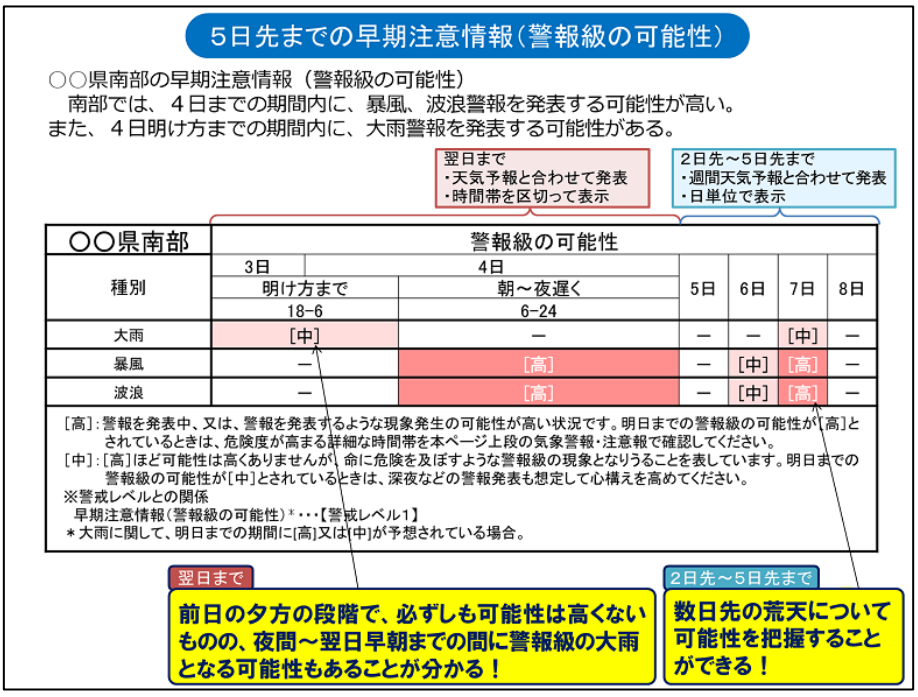


図 4 早期注意情報（警報級の可能性）

2. 関係機関へのメーリングリストによる周知について

平成 30 年 5 月 15 日に日野川水害タイムライン〔平成 30 年度版〕が完成し、平成 30 年度の出水期より運用を開始しております。

今後、タイムラインを確実に運用するためには各機関の情報共有が不可欠であり、これを円滑に行う手段としてメーリングリストの作成を行いました。

検討会参加機関においては、ここで定めるメーリングリストの運用に基づいた活用をお願いします。

2.1. メーリングリストの目的

日野川水害タイムラインを確実に運用するために、**各機関が必要な情報を収集し、関係機関の間で情報交換を行いながら各機関で連携した対応を行う**ことが重要です。そのため、検討会参加機関の間で必要な情報を共有する手段としてメーリングリストを活用することとします。

2.2. メーリングリストの加入機関・アドレス

○　加入機関

米子市、伯耆町、南部町、日吉津村、鳥取県、鳥取県警察本部、米子警察署、 黒坂警察署、鳥取県西部広域行政管理組合消防局、陸上自衛隊第 8 普通科連隊、 中国電力米子営業所、中国電力米子電力所、米子ガス、NTT 西日本鳥取支店、 NHK 米子支局、日本海 TV、山陰放送、山陰中央 TV、中海 TV、DARAZ FM、 なんぶ幸朋苑、ゆうゆう壱番館よなご、よなご太平園、GH やまもと、博愛会、 米子 WH、JR 西日本、日本交通、日ノ丸自動車、鳥取地方気象台、 倉吉河川国道事務所、日野川河川事務所 （構成機関としては全 28 機関） ※参加団体名は順不同

注）メンバーの追加や変更登録が必要な場合は、日野川河川事務所までお知らせください。

○　アドレス

各機関の担当者及びアドレス等については、別紙「日野川水害タイムライン・メーリングリスト」表のとおりです。

2.3. メーリングリストの運用方針

メーリングリストは以下の方針に則り発信します。

- メーリングリストで発信する情報
  - **① タイムラインの運用に必要な情報 ※**
  - **② 住民の避難に関する情報 等**

※タイムラインの発動、レベル移行時のメールには、次のメール発出予定を記載する。

メーリングリストに発信する内容の件名は以下のように統一いたします。

タイミング	発信者	件名
発動時	日野川河川事務所	【重要】日野川 TL 発動
移行時(準備~注意)		【移行】日野川 TL レベル■
移行時(1~5)		【移行】日野川 TL レベル■
全体解除時		【全体解除】日野川 TL

■ メールの発信例

例 1）タイムライン発動時

件名：【重要】日野川 TL 発動
日野川水系大規模氾濫時のタイムライン検討会　メンバー各位 日野川水害タイムライン事務局より、以下のとおりお知らせします。 【重要】タイムライン段階（レベル）について 台風経路や今後の気象情報等から、タイムラインのレベル準備段階を発動します。 ■ポータルサイト URL http://○○○ ■現状について 台風○号は、現在○○付近に位置しており、尚も北上中です。 ■今後の気象情報等について ○日には、日野川流域に最接近することが予想されます。 ■次のメール発出予定 次のメール発出は、○日○時頃を予定しています。

（前線対応文）

件名：【重要】日野川 TL 発動
日野川水系大規模氾濫時のタイムライン検討会　メンバー各位 日野川水害タイムライン事務局より、以下のとおりお知らせします。 【重要】タイムライン段階（レベル）について 今後、前線の影響が予測されることから、タイムラインのレベル準備段階を発動します。 ■ポータルサイト URL http://○○○ ■現状について 梅雨前線は、現在○○付近に位置しており、東に移動しています。 ■今後の気象情報等について 鳥取県南部において早期注意情報【大雨】「中」かつ大雨に関する鳥取県気象情報の発表が発表されており、警報に切り替える可能性が高いことが発表されています。 ■次のメール発出予定 次のメール発出は、○日○時頃を予定しています。

例 2）タイムラインレベル移行時（準備～注意）

件名：【移行】日野川 TL レベル注意
日野川水系大規模氾濫時のタイムライン検討会　メンバー各位 日野川河川事務所より、以下のとおりお知らせします。 【重要】タイムライン段階（レベル）について 台風経路や今後の気象情報等から、タイムラインのレベル注意段階とします。 ■ポータルサイト URL http://○○○ ■現状について 台風○号は、現在○○付近に位置しており、尚も北上中です。 ■今後の気象情報等について ○日には、日野川流域に最接近することが予想されます。 ■次のメール発出予定 次のメール発出は、○日○時頃を予定しています。

例 3）タイムラインレベル移行時（1～5）

件名：【移行】日野川 TL レベル 3
日野川水系大規模氾濫時のタイムライン検討会　メンバー各位 日野川河川事務所より、以下のとおりお知らせします。 【重要】タイムライン段階（レベル）について 台風経路や今後の気象情報等から、タイムラインのレベル注意段階とします。 ■ポータルサイト URL http://○○○ ■現状について 浸水害の大雨警報、洪水警報が発令されており、○時○分に溝口水位観測所にて避難判断水位 3.4m に到達しました。 ■今後の気象情報等について 今後も水位が上昇することが予想されます。 ■次のメール発出予定 次のメール発出は、○日○時頃を予定しています。

例 4）タイムライン解除時

件名：【全体解除】日野川 TL
日野川水系大規模氾濫時のタイムライン検討会　メンバー各位 日野川水害タイムライン事務局より、以下のとおりお知らせします。 ■タイムライン段階（レベル）について 気象情報や現在の水位情報より、日野川流域全体のタイムラインを解除します。 ■水位情報について 全ての基準観測所にて水防団待機水位を下回りました。 ■現状について 台風○号は、太平洋を抜けて熱帯低気圧になりました。 また、全ての市町村でタイムラインが解除されました。 ■次のメール発出予定 次のメール発出は、○日○時頃を予定しています。

3. フォローアップ会議（振り返り）の実施

大きな出水があった場合は、各機関の行動記録をもとにフォローアップ会議（振り返り）を実施します。

振り返りの結果をタイムラインに反映して改善等行い、次年度の出水期に備えます。

実施概要及び手順については、以下の通りです。

＜実施概要＞

実施時期：出水期後（年内に１回程度実施）
参加者　：日野川水害タイムライン事務局
（但し、出水の規模によっては検討会全メンバーが参加）
招集者　：国土交通省　日野川河川事務所

＜振り返りの手順＞

① 避難や減災に係る重要行動を中心に、実災害でのタイムライン、行動記録用紙への記載等に基づき、行動を分析します。
② 行動の分析に基づき、事後検証を実施します。この際に、当事者による「ここの判断が遅かった」「ここの作業に時間がかかった」という”反省”で終わらせるだけではなく、「ここの判断が遅かった原因は何か」「どのようにすれば改善するのか」など、第三者による「問いかけ」を実施することで原因や改善策を抽出します。振り返りでは以下の事項について確認します。

- 振り返りで行う確認事項
  - ✧ 事象の認知に関して：何が見えたのか（どのような状況だったか）
  - ✧ 行動に関して　　：その結果どのように行動したのか
  - ✧ 判断に関して　　：どの情報を基にどう判断したか
  - ✧ 結果に関して　　：何が起こったのか
  - ✧ 反省に関して　　：今後どうすれば良いと思うか